

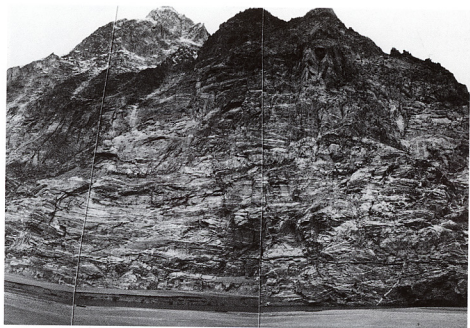
# カラコルム-ヒマラヤ山系のペグマタイトと宝石

石原 舜三・小笠原 正 穂

Shunso ISHIHARA Masatsugu OGASAWARA

カラコルム-ヒマラヤ山系のコリジョン帯にはペグマタイトの発達が著しく、その原因はアジア大陸-コーヒスタン島弧-インド大陸の衝突現象にあるらしい(本文6~14頁参照)。ペグマタイトは晶洞に

エメラルド、アクアマリン、トパズ、三色電気石などの美品を伴うことがあり、宝石資源として貴重である。



←  
写真1

金山に発達するアブライト-ペグマタイト網状岩脈、グルミット南方。



←  
写真2

同上、クローズアップ、母岩の変成岩、花崗閃緑岩の変形ステージに対応して何回もの貫入が見られる点に注目。

エメラルドやルビーはダイヤモンドと並ぶほど高価であるが 鉱物としては緑柱石[ $3\text{BeAl}_2(\text{SiO}_3)_6$ ]とコランダム[ $\text{Al}_2\text{O}_3$ ]であり それほど稀産鉱物ではない、これらに不純物としてのクロム(Cr)が入

ると緑柱石は濃緑色となり エメラルドと呼ばれ コランダムは赤色を呈し ルビーと呼ばれる、共に透明度が高く 色が濃いほど高価である。



↑写真3 ベグマタイト石英(白色)中に産するエメラルド、長さ26mm、ミンゴラ産。



↑写真4 ピンクトバズ、長さ12mm、Katlang、マルダン産。



↑写真5 巨大なルビー結晶、天地16mm、フンザ産。



↑写真6 両端で緑から透明に変わる三色電気石、長さ38mm、Astak ダッソー産。



写真7 再結晶石灰石に産するルビー、飾色はフログバイト、標本の左右69mm、ファンザ産。



↑  
**写真8**  
 透明トバズ（中央下  
 長さ18mm）と水晶、  
 シングス産。



↑ **写真9** 水晶結晶（長さ83mm）、  
 タッソー産。



↑ **写真10** 電気石に背負われた形のアルバイト、  
 電気石の長さ60mm、  
 シングス産。